

教理研究院

サンクチュアリ教会およびUCIを支持する人々の言説の誤り(2)

サンクチュアリ教会は、真のお父様のみ言と伝統が真のお母様によって覆されていると主張し、お母様のなさることをことごとく否定しています。また、UCI（いわゆる「郭グループ」）は、日本で集会を行って『統一教会の分裂』（日本語訳）という書籍を広めていますが、その書には誤訳やみ言改竄が散見し、お父様とお母様が分裂しているかのように論じています。彼らの主張は、真のお父様が真のお母様と共に立ててこられた勝利圏を否定するものであり、真のお母様を中心とする統一教会の一体化を損ねるものです。前回の(1)に引き続き、サンクチュアリ教会およびUCIを支持する人々の言説の誤りを指摘していきます。

なお、これらの内容を総合的に理解し把握するためには、「真の父母様宣布文サイト (<http://trueparents.jp/>)」の掲載文や映像をごらんください。

教理研究院

注、真の父母様のみ言、および教理研究院がすでに発表した文章は「青い字」で、UCI側の主張は「茶色の字」で区別しています。

二、UCI問題の解決を願って開設された「真の父母様宣布文サイト」

UCI（いわゆる「郭グループ」）側を支持する人々は、二〇一六年の秋頃から日本で集会を開いて、金鍾奭著『統一教会の分裂』（日本語訳）を広めています。この書は、真のお母様が真の

この書は、真のお母様が真の

ところで、真の父母様は二〇一一年五月二十五日に「真の父母様宣布文」を発表され、UCI問題（いわゆる「郭グループ問題」）の速やかな解決を願われました。そもそも、「真の父母様宣布文サイト」は、真の父母様が発表された宣布文を掲載し、UCI問題の速やかな解決を願って開設されたものです。そこで、UCI側を支持する人々が、日本の祝福家庭や教会員に働きかけて活動をしている今現在において、まずは、宣布文サイトに掲載した「真の父母の絶対、唯一、不変、永遠性——真の父母を中心の一つになろう——」を抜粋して紹介します。

【以下、サイト掲載文】

講論」には、次のように説明されています。

「天国は神の本性情と本形状のとおり、個性を完成した人間一人の容貌に似た世界であるということ、我々は知ることが出来る。人間において、その心の命令が中枢神経を通じて、その四肢五体に伝達されることにより、その人体が一つの目的を指向して動じ静ずるように、天国においては、神の命令が人類の真の父母を通して、すべての子女たちに伝達されることにより、みな一つの目的に向かって動じ静ずるようになるのである」(六九ページ)

……真の父母を通じて神様の願いが人々に伝達され、人類全体が一つの家族として相和合し、理想世界を実現していたのです。その理想世界を取り戻すために、血と汗と涙の道を歩まれ、歴史上初めて真の父母として勝利されたお父様が文鮮明・韓鶴子ご夫妻です。

真のお父様は、次のように

私たちは統一教会は、真の父母様を中心として一つにならなければなりません。……アダムとエバが堕落せず創造理想を成し遂げていたなら、実現されていた世界（天国）とはどのような世界だったのでしょうか。『原理

語っておられます。

『「チャム・プ・モ（真の父母）」というその名（韓国語で三文字）を考えると、真の父母によって歴史が治められ、真の父母によって新たな世界になり得る起源が生じ、真の父母によってサタンを屈服させ得る内的な因縁が結晶し、真の父母によって外的な世界を占領しているサタンを征服し、初めて神様を解怨成就してさしあげることのできる中心が結晶するのです。

それゆえ、真の父母と共に生き、真の父母の命令を受けて行動することのできる、この驚くべき恵みに、皆さんはまず感謝しなければなりません」（八大教材・教本『天聖經』二一九六ページ）

その真の父母を中心として統一教会全体が一つとなり、和合していくことが神様の願いです。その中心軸となる真の父母様の絶対性、唯一性、不変性、永遠性について、真のお父様は次のように語っておられます。

「真の父母というのは一組しかいないのです。人類の一組しかいない父母であるというのです。歴史に初めて登場した、空前絶後の真の父母が顕現した時代が成約時代であるというのです」（八大教材・教本『天聖經』二六三—二六四ページ）……

「真の父母の名前は永遠に一人しかありません。二人ではありません。過去も、現在も、未来も、永遠に一人しかありません。仏教も真の父母、儒教も真の父母、イスラームも真の父母、すべての教祖たちが必要とするその基準です。真の父母によって初めて、こういう重生の基盤を中心として、新しい天国、地上天国、天上天国がそろっているのであって、それ以外にはありません」（『祝福』一九九四年春季号、六三—六四ページ）

すべてに勝利された真の父母様は、以上のように語っておられます。私たち統一教会はこのみ言に従って、さらなる一体化を図り、真

の父母様を中心、一つにならなければなりません。

文顯進様、郭錠煥氏を中心とするすべてのメンバーが、真の父母様のもとに帰ってきて、一つに和合していくことを、私たちは切に願っています。

三十八度線の向こう側にいる」と語っていると解釈する悪意(1)お母様は、三十八度線(国境線)の向こう側にいるとする恣意的解釈

まず、UCI側を支持する人物の反論に記載された、み言の翻訳文を抜粋します。

『私』が神様の代身として純潔、純血、純愛の表象となつて鏡とならねばならないのに、(皆さんは)そのような鏡になつていますか?……先生の話を自分に便利に考えます。それが真の父母に侍る人ですか? どうか、足場なら足場になつて総生畜献納の祭物を出せと言つたのに責任者がそれを宣伝する人がどこにいますか? 先生がそのように生きましたか? 言ってみると言うのです! 私たちのお母様にも話してみなさい、いいかげんに生きているか。

お母様も三十八度線を越えねばならないのです。『あなたはあなたの行くべき道があり、私

三、UCIを支持する人物の「教理研究院の『分派による御言葉改竄の問題(1)』に対する反論(1)」への応答

教理研究院は、「真の父母様宣布文サイト」に「分派による『真のお母様』を貶めるための御言改竄の問題(1)」み言の前後の文章を隠し、意味を誤読させる」を掲載しました。それに対して、UCI側を支持する人物は、「教理研究院の『分派による御言葉改竄の問題(1)』に対する反論(1)」と題する反論文を公開しました。その反論の欺瞞性を指摘します。

【誤り①】お父様は「お母様が

あなた



ろん、世界基督教統一神霊協会が創立五十五周年を迎える意義深い日です。……私たちは、去

る一月十五日と三十一日、三回にわたって歴史的な「万王の王神様解放権戴冠式」を挙行しました。……今年の四月は、私たち夫婦が聖婚式を行ってから五十回目となる月（金婚式）です。

……私たち夫婦は、聖婚式を通して天から印を受け、人類の真の父母、真の師、真の王の珍しい復帰摂理路程を出発しました。それから五十年、神様を完全解放・釈放してさしあげ、万王の王としてお迎えするまで、私たち夫婦が歩んできた蕩滅復帰摂理の路程を、どうして筆舌です



べて説明することができるとか？ 遠い将来、歴史家たちが証明し、記録することでしょう

〔ファミリー〕二〇〇九年七月号、六〇八ページ）

ここで、「私たち夫婦は……天から印を受け……神様を完全解放・釈放してさしあげ」とあるように、真のお父様は、「万王の王神様解放権戴冠式」「金婚式」および「真の平和真の父母UN安着大会」の一連の式的勝利であったことを語っておられます。しかも、その事実は、「歴史家たちが証明し、記録することでしょう」とまで語っておられるのです。

この歴史的勝利を語られるとき、真のお父様は、常に「私たち夫婦は」と強調して語っておられることで分かるように、お父様お一人だけでなく、真のお母様がそこに含まれています。お母様の生涯も「歴史家たちが証明し、記録する」と言われているのです。お母様がお父様と一体となって歩んでおられたがゆえに、お父様は、お母様と共

に、歴史的勝利を宣布してこれらたということを知らなければなりません。

ちなみに、真のお父様は二〇〇九年四月十一日に、「ラスベガスで今や九十七パーセントまで越え、三パーセント残った峠を越えることができます」と語っておられます。

二月二十八日に語られた「お母様も三十八度線を越えねばならないのです」というみ言は、この「三パーセント残った峠を越えることができます」というみ言との関連で理解しなければならぬものと言えるでしょう。そして、翌年二〇一〇年天曆五月八日（陽曆六月十九日）と天曆五月十五日（陽曆六月二十六日）に、真のお父様は「最終一体」を宣布しておられるのです。

【誤り②】「分かれました」「分裂しました」という翻訳の文法的解説による誤り

【誤り①】の最初のほうに掲載した、UCI側を支持する人

は明らかに過去形である。

しかし、UCI側を支持する人物が訳した「分かれました」「分裂しました」は、適訳ではありません。この人物は、「私は私の行く道がある」という行ってみなさいは、まだ起こっていないことであるにも関わらず、「分かれてしまったことでしょう」と過去形の仮定形に訳すのは誤訳である。仮定の意味なら「分かれてしまうでしょう」とならなければならぬが原文は明らかに過去形である。と説明しています。

しかし、そのすぐ前の文章を読むと、「私は私の行く道がある」という行ってみなさいは過去形で表現されていません。行ってみなさいと命令形で語られているのです。

一般的に、命令形とは、現在やっていない行動に対して、してみなさいと言いつけるものです。行ってみなさいと命令形で語られたということは、現在、

行っていない行動に対して、してみなさいと言いつけると理解できます。それゆえ、「私は私の行く道がある」という行ってみなさいは、まだ起こっていないことなのです。

したがって、UCI側の人物が訳す「分かれました」「分裂しました」は、適訳ではないことが分かります。真のお父様の「分かれた」の単語は文法的には過去形で語られていますが、前後の文脈などを考慮してみると、「分かれてしまったことでしょう」「分かれてしまうでしょう」「分かれていたでしょう」がより適訳であると言えるのです。

すなわち、「갈라졌지」という言葉は、過去形にはなっていますが、文脈からして、仮定過去であると読み取れるものです。「あなたはあなたの……行く道がある」と言っていて、（自分なりに）行ってしまったら、「分かれていた」という意味で語っておられるのです。

ですから、み言を素直に読

物の「翻訳の誤り」を指摘する部分のみ言を引用します。

『あなたはあなたの行くべき道があり、私は私の行く道がある』という行ってみなさい、分かれました（分裂しました）。

次に、UCI側を支持する人物の翻訳の解説を引用します。

당신은 당신 가야 할 길이 있고 나는 나대로 갈 길이 있다 고 해서 가보라고요, 갈라졌지, 갈라졌지 이라는のは過去形で、「分かれた。」もしくは「分かれたでしょう。」としか訳すことはできない。Yさんの引用した「分裂しました」も意味は似ているが、「分かれた」が原文通りの表現である。問題は、「私は私の行く道がある」という行ってみなさいは、まだ起こっていないことであるにも関わらず、「分かれてしまったことでしょう」と過去形の仮定形に訳すのは誤訳である。仮定の意味なら「分かれてしまうでしょう」とならなければならぬが原文

母様をおとしめようとするのでしょうか？ その目的は、金鍾奭著『統一教会の分裂』という書籍に、「韓鶴子の不従順」という項目をわざわざ設けて、そこにそのように思わせるためのみ言を盛り込むことを通じ、いかにもお母様が真のお父様に反逆しておられるかのような、悪なるイメージを作り上げようとすることにあります。

そして、真のお母様の「お父様に対する不従順」によって、UCI側の人物たちは真のお父様のもとを追い出されてしまったのだという、彼らの作った「ストーリー」を、食口たちに信じ込ませようとしているのだと言えるでしょう。

二〇〇九年一月から五月の一連のみ言で分かるように、真のお父様と真のお母様は一体となつてみ言を共に歩んでこられたのであって、このようなUCI側を支持する人物たちの情報操作にだまされてはなりません。